

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700409
法人名	株式会社 ステージアップ
事業所名	グループホーム優瑠里
所在地	八幡浜市保内町喜木1-166-1
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・悪い所を見つけて治す医療的な介護ではなく、いい所を見つけて伸ばす保育的な介護を目指している。 ・ヘルプ(余計なお世話によって、相手を物言わぬ受身の人へと変え、自分の意思ややりたい事を削いでしまう可能性がある)ではなく、サポート(やる気を出してもらうための黒子的な役割、出来ないところは手伝い、出来る事を見つけて伸ばし、自分にも出来る事があると気付いてもらう)でありたい。 ・十人十色のサービスが出来るグループホーム。 ・明るい環境で、いつでも笑い声が聞こえてくる、家族、知人、地域の方がいつでも遊びに来てくれるグループホーム。 ・職員が改善活動として、食事、入浴、排泄、3つの班に分かれてせいかつの質の向上、情報の共有に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/38/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3870400425-00&PrefCd=38&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は利用者に何気ない当たり前の生活の中から、「笑顔」「健康」「生きがい」が引き出せることを考えた支援に努めている。「食事、排泄、入浴」について利用者一人ひとりのマニュアルを作成し、安全に楽しく生活できるよう利用者を大切に考えている。家庭菜園で育てた新鮮な野菜を使用して利用者のリクエストを取り入れた食事を提供したり、毎日入浴できる体制を整えたり、個別の買い物などの外出の希望にも対応するなど、利用者本位のサービスを提供している。施設長は厳しい中にも自らの言動により、利用者に対する姿勢を職員に伝えており、職員はその姿をとても勉強になると受けとめている。管理者が交代して2年目であるが、利用者や職員に対する真摯な対応で職員の司令塔として役割を果たしている。また、職員は利用者一人ひとりを尊重しながら、家庭生活の延長としてできることはしてもらえるような支援も実践できており、洗濯物を畳むなど家庭的な雰囲気の中で過ごされている様子を見ることができた。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 3 月 5 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優瑠里

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 橋井 義浩

評価完了日

平成 27 年 2 月 12 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 仕事をする上で目的を明確にし、理念である「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を心がけて、利用者の日々の暮らしを支えている。 毎月のスタッフ会議で、理念に繋がる接遇や行動、思考について話し合い、実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 「笑顔・健康・生きがい」をキーワードにして、利用者が何気ない当たり前の生活ができるようにとの思いで理念を作成している。理念の言葉を利用者が文字にし、職員の制服でもあるTシャツに印刷されており、日々職員は背中に重みを感じながら支援に努めている。スタッフ会議などで日常の言動の振り返りを行い、理念に沿ったケアが実践できているか確認している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事、保育所や幼稚園の行事、小学校の行事に相互に参加したり、地域での声かけや近所付き合いをしている。また、スタッフが、地域の会（婦人会やPTA）の会員になっている。さらに、どこへ出向いても歓迎され、大切にされると感じる。</p> <p>(外部評価) 地域行事に積極的に参加することで、利用者が知人や友人に会えることが多く、挨拶や会話を交わしている。小、中学校の運動会の案内があり見学に出かけたり、施設長が学校に出向き認知症などの講話をしたりするなど相互の交流を図っている。婦人会や老人会、ボランティアとの交流もあり、積極的に地域にも出向き交流を深めている。また、事業所にはAEDが設置され、緊急時の協力ができる体制を整えるなど、地域貢献にも繋がるよう努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の認知症の勉強会の講師を引き受けたり、小学、中学、高校生の学習を受け入れを行ったり、入居者との交流の中で、認知症の方への理解を深めて頂く様に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 年間を通じて開催しており、事業所内での取り組みや活動、グループホームでの現状や課題を報告したり、行事に参加してもらい気付きや反省等の意見交換を行っている。会議の内容を職員には、スタッフ会議で報告し、出された意見や要望を話し合い、改善に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、区長、サロン代表、婦人会長、ボランティア、さわやか相談員、市担当者等の多くの参加を得て開催している。会議では利用者の状況や行事の説明、課題等の報告して参加者と話し合いをしている。時には病院の看護師を招き勉強会や懐かしい昔話の朗読、ファミリーバイキングなどを合わせて形式を変えて実施する工夫をしている。また、新人職員の入職時の最初の会議では、参加者に必ず紹介している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議に行政の方にも参加してもらっている。支援困難事例や事故報告等を随時報告、相談し意見をもっている。 市主催のグループホーム連絡協議会に参加し、意見交換や行政の指導を受け、サービスの向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の様子を知ってもらうほか、利用者の相談や必要なアドバイスをもらうなど相互の情報共有ができており、良好な関係が築かれている。ヒヤリハットも迅速に報告している。また、月1回さわやか相談員の訪問があり、利用者の話をじっくり聞いてもらっている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束等の排除のための取り組みに関する理念及び方針を施設内に掲示している。身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。 玄関は、夜間帯を除き常に解放されている。</p> <p>(外部評価) 職員が利用者に寄り添い、見守りをする事で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の転倒防止など安全面を考え、家族の同意を得てベッド柵を使用した場合があるが、職員全員で別の対処方法などの話し合いをしている。また、言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。日中玄関は施錠しておらず、利用者は自由に出入りすることができる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に入居者の状態に注意を払い、スタッフ間で連携をとっている。スタッフ会議の議題として、学んでおり、身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社会福祉協議会より、社会福祉士を講師に招き研修会を開催した。研修参加者は、スタッフ会議時に研修内容を報告し、職員全体で学んでいる。制度利用の入居者がおり、制度を理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には重要事項説明書やパンフレットを使い、利用料金、職員体制、その他細かな説明を行っている。わからない事や質問には繰り返し説明を行ったり、契約後の問い合わせにも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。来訪時や電話連絡、運営推進会議等で要望や意見を聞いている。毎月、さわやか相談員の訪問がある。出された意見は、スタッフ会議で検討している。	
			(外部評価) 家族が運営推進会議へ参加しているほか、面会時に利用者の状況を職員が報告して会話する機会を持つことにより、意見を聞くよう努めている。毎月の事業所便り「ゆるりん」を送付し、利用者の楽しそうな表情の写真を見て喜ばれる家族もあり、「これからもいろいろな場面で写真を撮ってほしい」という希望も出されている。玄関先に意見箱を設置しているが、投函されることは少ない状況であるため、日頃から些細な意見でも利用者や家族から話しやすいよう関係づくりにも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、スタッフ会議を行い、経営者と職員全員が参加し、研修報告や意見交換を行っている。ユニット毎に改善活動を行い、それぞれの取り組みや活動報告を行っている。 (外部評価) 毎月のスタッフ会議には代表者も参加しており、事業所報告や意見交換を行い、意見や要望を伝えることもできる。行事や研修報告に対しては、必ず職員一人ひとりから意見を聞いている。利用者の事例検討を行いサービスの向上に努めたり、運動会などの行事の内容を話し合ったり、必要な物品の購入の意見が出されるなど、代表者や施設長、管理者、職員それぞれの視点で利用者本位の意見を出し合い、運営に反映できる体制ができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務3年以上の職員には、特別手当や退職金共済への加入制度がある他、各資格手当の支給がある。 経営者がスタッフ会議にて、経営報告や各手当等の説明を行っている。又、経営者が、毎日顔を出し、職員の意見を直接聞いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多方面への研修の参加を実施している。職員全員にケアの技術や知識を身につける機会が確保されており、希望する研修に参加している。研修に参加した職員は、スタッフ会議にて研修内容を報告し、再学習する機会を設けている。介護福祉士試験等の資格取得の為に研修参加費用の一部助成がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 認知症実践者研修会への参加、市や南予グループホーム連絡協議会主催の研修会や勉強会に参加し交流を図っている。行事を通じて他施設と交流し、他施設の良い所を取り入れている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前の面談でご本人やご家族の思いを十分に伺い、ケアプランを作成している。ご本人の思いを生かしながら、日常生活の支援をおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人を含めた面談とご家族のみの面談を行い、家族の思いを受け止められる様、努力している。 無理強ひすることなく家族の思いが話せる様な関係作りをしていきたい。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 順番優先としているが、早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を取っている。 他のサービス機関の紹介や、グループホーム共用サービスの利用を進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側、される側の意識を持たず、食事の準備、レクリエーション等共に楽しみながら過ごし、人生の先輩としての知識を学ばせてもらっている。 一緒に作業したり、楽しむ事で得意分野が発揮できるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に、こまめに連絡を入れ、情報の共有に勤めている。 受診同行や外出時の同行をお願いしたり、衣替えに来ていただいたり、ご本人との関わりの中で、職員と一緒にご本人を支える役割を持ってもらい、関わってもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族にセンター方式への記入をお願いし、長年なじんだ習慣や好みを把握し、入所後も出来るだけ生活習慣が継続できるように対応している。馴染みの医院へや美容院への外出支援を行ったり、自宅への外出や外泊の援助をおこなっている。 (外部評価) 馴染みの美容室などに出かけられるよう支援している。事業所には知人や友人の面会も多く、職員は快い対応に努めている。地元の利用者が多く、地方祭や農業祭などの地域行事に参加することで、馴染みの人に会うことも多く、関係が継続できるよう努めている。また、家族の協力を得ながら法事やお墓参りなど継続して支援している。ボランティアや医療関係者と馴染みの関係もできてきており、利用者の楽しみに繋がっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に活動できる作業を用意したり、個別に話を聞き、職員が仲立ちする事で関係を調整し、支援している。 その日の心身の状況や気分、感情の変化に注意し、利用者同士の関係が円滑になるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設への住み替えや入院の際には、関係者に本人の状況、情報を細かく伝え、ご家族にも十分な支援をお願いした。 ターミナルケアにて、グループホームで亡くなられた利用者のご家族が、立ち寄って下さる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者に声をかけて希望や思いを聞いたり、家族にも来訪時等に思いを聞いている。 又、ご本人の表情や行動から、思いを汲み取り把握に努めている。担当スタッフを位置づけ、より深く思いを受けとめられるように努めている。 (外部評価) 日々の関わりの中で職員は利用者に声をかけ、思いや意向を把握するように努めている。利用者一人ひとりに合わせた方法で思いを聞くよう職員全員で努めている。また、意向を言い表しにくい利用者には、表情や行動からも思いをくみ取るよう努めている。利用者毎の担当職員を中心に新たに知り得た情報は記録に残し、職員間で共有し、利用者の思いを大切にしたい介護計画などサービスに反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人のお話やご家族のお話から生活歴等の把握に努めている。センター方式への記入をご家族にお願いし、これまでの生活習慣や暮らしについて把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズム、心身の状況を把握し、記録として残し把握に努めている。関わりの中での気づきをセンター方式のシートに記入したり、改善活動として取り組み、スタッフ全員で申し送りし、情報の共有に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人の思いやご家族からの要望、職員の気付きを検討し、ご本人本位の介護計画が作成できるように努めている。定期的にカンファレンスや評価を行い介護計画の見直しを行っている。又、利用者の状況に変化が見られた場合には、現状に合った介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向や要望を事前に聞き取り、職員全員でカンファレンスを行い、担当職員を中心に利用者本位の介護計画を作成できるよう努めている。前回の外部評価の「期待したい内容」から支援記録の見直しを行い、計画に基づいた経過記録となるよう改善している。定期的にモニタリングを行い、職員全員の意見や気づきを大切にして、介護計画がより良いものになるよう努めている。	前回の外部評価の「期待したい内容」から、次のステップアップに向けて支援記録の見直しをしているが、現段階では職員全員へ周知するまでに至っておらず、継続してより良い経過記録が職員全員で作成されることを期待したい。また、全員で情報を共有することにより職員は達成感を感じ、サービスの向上や意欲に繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りやショートミーティング、カンファレンス、会議等で情報を共有、記録し実践や介護計画の見直しに生かしている。また、個人ノートを作成し、見直すことで、情報の共有を図っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制を生かして、受診や体調管理を行っている。ご本人やご家族の要望等を配慮し、職員が馴染みの病院への受診を支援している。 なじみの美容院や理容院へ出掛けたり、ご本人と自宅に立ち寄り、ご家族との外出を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民政委員や地区の方々に運営推進委員になってもらい、行事の際には協力を得ている。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており、様々な指導をしてもらっている。各教育機関との協力や働きかけ、訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を受診、職員が受 診の支援を行っている。協力医療機関からの往診が月に2回 あり、その都度相談に乗ってもらっている。 協力医療機関がかかりつけ医でない利用者も、希望すれば診 てもらえる体制がある。 (外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援 している。月2回協力医の往診や急変時の迅速な対応、24時 間体制での連携が整っているため、希望して協力医をかかり つけ医に変更する利用者も多い。協力医は電話でも気持ちよ い対応をしてくれることから、職員の安心に繋がっている。 職員は受診介助をする場合もあるが、家族から同行の希望が あれば相互の連絡を取り合うなど、情報を共有し安心して適 切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回看護師の定期訪問があり、健康相談や医師との連携相 談を行っている。利用者に状況の変化がある際には、随時対 応できる体制がある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、ご本人の支援に関する情報をご家族と相談しな がら、医療機関に提供している。入院中は、ご家族や病院か らの情報提供を受け、ご本人の状況を把握し、随時、カン ファレンスを実施、退院後の受け入れがスムーズに行える様 に、取り計らった。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りに関する指針を定めており、ご家族の同意を得て、医 師及び医療機関と連携し対応している。 入所時に、看取りに関する指針を説明し同意を得ている。ご 本人の状況に合わせて、ご家族の希望があればグループホー ムで看取りが出来ることをお話し、ご希望があれば対応して いる。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を定め、入居時に対応できる内容な どを家族に説明している。管理者交代後に1名の看取りを経 験しており、家族が見守る中で穏やかに最期を迎えられたと のことであった。家族から「よくしていただいた」という感 謝の言葉が聞かれた。今後は、利用者の重度化を踏まえ、医 療との連携や職員のケアのあり方について話し合いを持ちな がら、支援に取り組む姿勢である。	「看取りに関する指針」を定めて看取り介護を実施し ているが、職員への研修や勉強会の充実が望まれる。 看護師を招いて勉強会を実施していることから、時には 重度化や終末期をテーマにするなど、職員が少しでも 知識が習得できるよう取り組むことを望みたい。また、 医療との連携など支援体制についても職員全員で 話し合い、職員が不安なく終末期ケアに取り組める体 制づくりを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 玄関先にAEDを設置している。消防署の普通救命講習に職員全員が参加し、AEDの使い方をスタッフが把握している。緊急時対応マニュアルの確認や応急手当の確認を会議等で行っている。 急変時や緊急時に、かかりつけ医の往診対応がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月19日に業所独自で避難訓練を実施している。マニュアルや緊急時連絡網を作成している。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をしてもらっている。避難訓練時に運営推進会議を実施し、地域の方々に協力をお願いした。今後は、施設からの地域貢献についても取り組んでいきたい。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと防災訓練を実施している。毎月19日に自主的に事業所独自で避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めている。車いすを使用している利用者の居室には車いすマークの表示があり、避難した利用者はドアに吊るされているネーム板を床に落とすなど救出者に分かりやすくする工夫を取り決めている。訓練には地域住民の参加がなかなか難しく、今後も継続して参加を呼びかけて行く方針である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 年長者として、誇りを大切に丁寧な言葉かけで対応している。ご家族の了解を得て、その時々状況に合わせて、ご本人の長年慣れ親しんだ呼び名で呼ぶ事により、ご本人の心に寄り添い、信頼関係を築ける様に心がけている。人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして傷つける事が無い様に配慮している。 (外部評価) 職員は命令口調や声のトーン、遠いところからの声かけ、聞き取りやすい話し方などに注意を払い、職員全員で意識して利用者一人ひとりに合わせた声かけを心がけている。入浴時やトイレ介助時など、必ずノックして声かけをするなど、羞恥心に配慮したケアを行っている。家族の了解を得て、リビングの和室を使用している利用者には、必要に応じてつい立を設置するなどプライバシーの配慮は忘れないよう努めている。また、職員は利用者を人生の先輩として敬う姿勢を常に念頭に置いて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でご本人に相談したり、希望を聞いている。意思表示の出来ない方も、表情や反応から思いを汲み取り、対応するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<u>(自己評価)</u> 利用者一人ひとりの力を把握し、その日の体調や気分に合わせてながら、その人のペースに合わせた生活を送ってもらっている。其々の得意な分野が活かせるような支援に努めている。利用者からの細かな要求にも、その都度対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<u>(自己評価)</u> 定期的に出張美容店の訪問をしてもらっている。希望のある方は毛染めもされている。なじみの美容院や理容院への外出を支援している。毎朝、更衣洗面し身だしなみを整える支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<u>(自己評価)</u> 毎日、献立を知らせ、苦手な食材がある方は、代替献立を作っている。出来る人に声掛けし、一緒に料理をしてもらっている。職員も利用者と同じテーブルにつき会話しながら食事をしている。ホームの菜園で採れた野菜やご家族から頂いた野菜を料理に使っている。季節毎の献立、行事食や誕生日の祝膳を行っている。 <u>(外部評価)</u> 施設長が献立を作成し、利用者からリクエストのある場合には臨機応変に対応している。食材は自家菜園で採れた新鮮な野菜が使用されている。行事の特別なメニューを取り入れたり、時折簡単なおにぎりなどを持って出かけ、気分転換を図ることもある。利用者は職員と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。利用者は自ら台所に立ち、米とぎをするなどできることを手伝っている。また、食事前には健口体操や発生練習をし、食事が食べやすくなるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<u>(自己評価)</u> 利用者毎の食事摂取量や水分量を記録している。利用者別食事介助時の留意事項一覧表を作成し、一人ひとりの呑み込みの状態や好み等を職員が把握している。季節毎の献立を保健センター栄養士に、確認してもらいアドバイスしてもらった物を、利用者に合わせて更に改定している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<u>(自己評価)</u> 毎食後、各居室洗面台にて口腔ケアを実施している。その人の状況に合わせた介助や見守りを行っている。夜間帯は義歯を外してもらい、洗浄している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 一人ひとりの習慣や排泄間隔のパターンを把握し、トイレ誘導する事で、トイレにて排泄できるような支援を行っている。日中は布のパンツとパットで過ごされている方もおられる。足台を利用する事で其々に合った便座の高さに調節し、トイレで排泄しやすい姿勢をとって頂く事により、自然排便に繋がるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 日中はできるだけトイレでの排泄支援を行っている。夜間帯や利用者の状態に合わせて、パットや紙パンツ、ポータブルトイレを使用している。排泄チェック表は細かく記録され、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。3か所あるトイレを利用者の状態に合わせて使い分けている。トイレには足台も用意されており、利用者が排泄しやすい姿勢が取れるよう配慮したり、弾力マットを取り付け楽な体制を取りやすくするなど、職員が手作りしてスムーズな排泄ができるよう工夫している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れている。飲水量を記録、生活の中で度々、飲み物を勧めたり、甘味料にオリゴ糖を使用したりしている。腹部マッサージ、便秘解消体操を取り入れている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日入浴出来るように準備し、時間は、基本10:00~16:00ではあるが、利用者の希望する時間に入浴してもらっている。身体状況に合わせて、介助方法や介助人数を変え、安定した入浴ができるようにしている。改善活動として入浴班があり、一人ひとりの入浴マニュアルを作成している。</p> <p>(外部評価) 毎日入浴ができるよう支援している。入浴時間の設定はあるが、夕方など利用者の希望時間があれば出来る限り対応するよう努めている。「心地よい入浴マニュアル」を利用者毎に作成し、気持ちよく入浴してもらおう支援にも努めている。入浴を嫌う利用者には無理強いはいしないよう、声かけやタイミングなどを工夫している。また、利用者の状態に合わせて、2人体制で介助をするなど安心安全に気持ち良く楽しみながら入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中の活動を促し、生活のリズムを整えて頂けるように努めている。眠れない時は、好きな飲み物を勧めたり、ゆっくりした時間を過ごして頂き、休息出来る様に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの薬を理解、把握しており、名前、日付け等の区分を1つ1つ記入し、誤薬のないよう声だし確認し、利用者に1回分ずつ手渡しし見守りや介助を行っている。受診時には、職員が同行し症状の変化等を詳しく医師に報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や力を生かして、畑での野菜作りや、料理、掃除等の役割を担ってもらい、気分転換や楽しみの支援を行っている。感謝の気持ちを伝える事で、やりがいを感じられている。本人の誕生日当日に誕生日を祝い、季節の行事を各担当者が計画、協力して実施し、入居者全員の交流や楽しみとなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所の公園に散歩に出掛けたり、個別に買い物に出掛けている。ホーム行事で利用者の希望する場所に外出したり、地方祭や盆踊り等、季節毎の地区の行事に地元ボランティアの協力を得て参加している。 身体状況に合わせた、外出支援をおこなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した際には、自分の財布からお金を出す機会を作り支援している。 預かり金については、個人別に金銭出納帳を記入し、ご家族に相談、報告しながら使用し、毎月収支報告書と明細を送付している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に電話が出来る声掛けや雰囲気作りの支援をしている。手紙や贈り物を頂いた際には、お礼の電話や手紙を書く援助をしている。 毎年、ご本人の写真入りの年賀状をご家族、知人に送る支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間は全員が囲める食卓やくつろげるソファがあり、畳みのスペースでは横になり休息できるようになっている。利用者はそれぞれが好みの場所で過ごす事ができる。台所からも利用者を見渡す事ができ、料理の音や匂いから家の生活を感じ取って頂いている。壁面の飾りを手作りし季節感をだしている。</p> <p>(外部評価) リビングの壁には棚が取り付けられ、訪問調査日には以前入所していた家族から譲り受けたお雛様が飾られており、季節などに応じて飾りつけを変えている。リビングには円を囲むようにテーブルが置かれ、散歩時に摘んだ水仙がビンに飾られ、いい匂いを放っていた。ソファも置かれており、利用者それぞれがちぎり絵の作成をしたり、洗濯物を畳んだりするなど、家庭的な空間の中で過ごされている様子を見ることができた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者同士でソファに座りくつろげる工夫をしている。椅子の配置を替え、台所に移動してもらったり、マッサージチェアを利用し、独りになれる空間を作っている。食事のテーブルでは花や絵を目隠しかわりとし、配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ご家庭で、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等をご本人に持参して頂いている。配置や飾り付けもそれぞれが好みの物になっている。ご家族の写真が飾られている。</p> <p>(外部評価) 居室はエアコン、洗面台が備え付けられている。家族との写真と一緒に孫やひ孫の成長が分かるよう飾ったり、位牌を持ち込み毎朝手を合わせる利用者の姿を見ることが出来る。使い慣れたベッドの持ち込みや昔懐かしいタンスやコタツ、いすなどが置かれ、利用者一人ひとり個性あふれる空間づくりがされており、落ち着いて過ごせるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 椅子やテーブルは個人の体格に合わせた高さの物を使用している。浴室やトイレで補助具を使う事で、自分の力を生かせる工夫をしている。居室やトイレ浴室に大きく名札を掲げ、混乱や間違いの無いようにしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700409
法人名	株式会社 ステージアップ
事業所名	グループホーム優瑠里
所在地	八幡浜市保内町喜木1-166-1
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・悪い所を見つけて治す医療的な介護ではなく、いい所を見つけて伸ばす保育的な介護を目指している。 ・ヘルプ(余計なお世話によって、相手を物言わせぬ受身の人へと変え、自分の意思ややりたい事を削いでしまう可能性がある)ではなく、サポート(やる気を出してもらう為の黒子的な役割り、出来ないところは手伝い、出来ることを見つけて伸ばし、自分にも出来る事があると気付いてもらう)でありたい。 ・十人十色のサービスが出来るグループホーム。 ・明るい環境で、いつでも笑い声が聞こえてくる、家族、知人、地域の方がいつでも遊びに来てくれるグループホーム</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/38/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3870400425-00&PrefCd=38&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は利用者何気ない当たり前の生活の中から、「笑顔」「健康」「生きがい」が引き出せることを考えた支援に努めている。「食事、排泄、入浴」について利用者一人ひとりのマニュアルを作成し、安全に楽しく生活できるよう利用者を大切に考えている。家庭菜園で育てた新鮮な野菜を使用して利用者のリクエストを取り入れた食事を提供したり、毎日入浴できる体制を整えたり、個別の買い物などの外出の希望にも対応するなど、利用者本位のサービスを提供している。施設長は厳しい中にも自らの言動により、利用者に対する姿勢を職員に伝えており、職員はその姿をとても勉強になると受けとめている。管理者が交代して2年目であるが、利用者や職員に対する真摯な対応で職員の司令塔として役割を果たしている。また、職員は利用者一人ひとりを尊重しながら、家庭生活の延長としてできることはしてもらえるような支援も実践できており、洗濯物を畳むなど家庭的な雰囲気の中で過ごされている様子を見ることができた。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 3 月 5 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優瑠里

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 橘井 義浩

評価完了日

平成 27 年 2 月 12 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を理念に掲げ、利用者の日々の暮らしを支えている。 スタッフ会議等でも理念について話し合い実践に繋げているが、個人差が多く感じられる。	
			(外部評価) 「笑顔・健康・生きがい」をキーワードにして、利用者が何気ない当たり前の生活ができるようにとの思いで理念を作成している。理念の言葉を利用者が文字にし、職員の制服でもあるTシャツに印刷されており、日々職員は背中に重みを感じながら支援に努めている。スタッフ会議などで日常の言動の振り返りを行い、理念に沿ったケアが実践できているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事や幼稚園、保育所、小学校の行事に参加し、交流している。 地区の老人会長、自治会長に運営推進員になって頂いている。ホーム行事の際には、老人会や高校生、中学生、小学生にボランティアとして参加して頂いている。近隣の方やご家族、知人、多くの方が協力して下さっている。	
			(外部評価) 地域行事に積極的に参加することで、利用者が知人や友人に会えることが多く、挨拶や会話を交わしている。小、中学校の運動会の案内があり見学に出かけたり、施設長が学校に向き認知症などの講話をしたりするなど相互の交流を図っている。婦人会や老人会、ボランティアとの交流もあり、積極的に地域にも出向き交流を深めている。また、事業所にはAEDが設置され、緊急時の協力ができる体制を整えるなど、地域貢献にも繋がるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事の際、老人会や婦人会、高校生にボランティアとして参加してもらい、入居者との交流の中で認知症の方への理解を深めて頂く様に取り組んでいる。小学生や中学生の福祉体験の受け入れを行っている。運営推進委員や老人会の方々を対象とした、認知症学習会を施設長、管理者が中心となり実施した。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 年間を通じて開催しており、事業所ないでの取り組みや活 動、グループホームでの現状や課題を報告したり、行事に参 加してもらい気付きや反省等の意見交換を行っている。会議 の内容を職員にはスタッフ会議で報告し、出された意見や要 望を話し合い、改善に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、区長、サロン代表、婦人会 長、ボランティア、さわやか相談員、市担当者等の多くの参 加を得て開催している。会議では利用者の状況や行事の説 明、課題等の報告して参加者と話し合いをしている。時には 病院の看護師を招き勉強会や懐かしい昔話の朗読、ファミ リーバイキングなどを合わせて形式を変えて実施する工夫を している。また、新人職員の入職時の最初の会議では、参加 者に必ず紹介している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営会議に行政の方にも参加してもらっている。 支援困難事例や事故報告等を随時を報告、相談し意見をも らっている。 市主催のグループホーム連絡協議会に参加し、意見交換や行 政の指導を受け、サービス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の様子を知って もらうほか、利用者の相談や必要なアドバイスもらうなど相 互の情報共有ができており、良好な関係が築かれている。ヒ ヤリハットも迅速に報告している。また、月1回さわやか相 談員の訪問があり、利用者の話をじっくり聞いてもらって いる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束の排除の為の取り組みに関する理念及び方針を施設 内の各スタッフルームホール側に掲示している。身体拘束、 虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践 している。夜間帯の玄関の施錠を行っているが、日中は恒に開 放している。</p> <p>(外部評価) 職員が利用者に寄り添い、見守りをする事で身体拘束をし ないケアに取り組んでいる。利用者の転倒防止など安全面を 考え、家族の同意を得てベッド柵を使用した場合があるが、 職員全員で別の対処方法などの話し合いをしている。また、 言葉での拘束についても職員全員で意識しながら適切な対応 をするよう心がけている。日中玄関は施錠しておらず、利用 者は自由に出入りすることができる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に入居者の状態に注意を払い、スタッフ間で知らせあっている。スタッフ会議の議題として学んでおり、身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 社会福祉協議会より、社会福祉士を講師に招き研修会を開催した。研修参加者は、スタッフ会議時に研修内容を報告し、職員全体で学んでいる。制度利用の入居者がおり、制度を理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には重要事項説明書やパンフレットを使い、利用料金、職員体制、その他細やかな説明を行っている。わからない事や質問には繰り返し説明を行ったり、契約後の問い合わせにも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。来訪時や電話連絡、運営推進会議等で要望や意見を聞いている。毎月、さわやか相談員の訪問がある。出された意見は、スタッフ会議で検討している。	
			(外部評価) 家族が運営推進会議へ参加しているほか、面会時に利用者の状況を職員が報告して会話する機会を持つことにより、意見を聞くよう努めている。毎月の事業所便り「ゆるりん」を送付し、利用者の楽しそうな表情の写真を見て喜ばれる家族もあり、「これからもいろいろな場面で写真を撮ってほしい」という希望も出されている。玄関先に意見箱を設置しているが、投函されることは少ない状況であるため、日頃から些細な意見でも利用者や家族から話しやすいよう関係づくりにも取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月スタッフ会議を行い、経営者と職員全員が参加し、研修報告や意見交換を行っている。ユニット毎に改善活動を行い、グループ毎に取り組んでいる内容を報告し、改善にむけて取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 毎月のスタッフ会議には代表者も参加しており、事業所報告や意見交換を行い、意見や要望を伝えることもできる。行事や研修報告に対しては、必ず職員一人ひとりから意見を聞いている。利用者の事例検討を行いサービスの向上に努めたり、運動会などの行事の内容を話し合ったり、必要な物品の購入の意見が出されるなど、代表者や施設長、管理者、職員それぞれの視点で利用者本位の意見を出し合い、運営に反映できる体制ができている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務3年以上の職員には、特別手当や退職金共済への加入がある他、各資格手当の支給がある。経営者がスタッフ会議にて、経営報告や各手当等の説明を行っている。又、経営者が毎日顔を出し、職員の意見を聞いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 多方面への研修の参加を実施している。職員全員にケアの技術や知識を身につける機会が確保されており、希望する研修に参加している。研修に参加した職員は、スタッフ会議にて研修内容を報告し、再学習する機会を設けている。介護福祉士試験等の資格取得の為に研修参加費用の一部助成がある。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 認知症実践者研修会への参加、市や南予グループホーム連絡協議会主催の研修会や勉強会に参加し交流を図っている。行事を通じて他施設と交流し、他施設の良い所を取り入れている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用前の面談でご本人やご家族の思いを十分に伺い、ケアプランを作成している。ご本人の思いを生かしながら、日常生活の支援をおこなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人を含めた面談とご家族のみの面談を行い、家族の思いを受け止められる様、努力している。 無理強ひすることなく家族の思いが話せる様な関係作りをしていきたい。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 順番優先としているが、早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を取っている。 他のサービス機関の紹介や、グループホーム共用ディサービスの利用を進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側、される側の意識を持たず、食事の準備、レクリエーション等共に楽しみながら過ごし、人生の先輩としての知識を学ばせてもらっている。 一緒に作業したり、楽しむ事で得意分野が発揮できるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に、こまめに連絡を入れ、情報の共有に勤めている。 来所時には、要望等がないかたずねているが、ご家族からは感謝の言葉が多い。 受診同行や外出時の同行をお願いしたり、衣替えに来ていただいたり、ご本人との関わりの中で、職員と一緒にご本人を支える役割を持ってもらい、関わってもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族にセンター方式への記入をお願いし、長年なじんだ習慣や好みを把握し、入所後も出来るだけ生活習慣が継続できるように対応している。馴染みの医院へや美容院への外出支援を行ったり、自宅への外出や外泊の援助をおこなっている。 (外部評価) 馴染みの美容室などに出かけられるよう支援している。事業所には知人や友人の面会も多く、職員は快い対応に努めている。地元の利用者が多く、地方祭や農業祭などの地域行事に参加することで、馴染みの人に会うことも多く、関係が継続できるよう努めている。また、家族の協力を得ながら法事やお墓参りなど継続して支援している。ボランティアや医療関係者と馴染みの関係もできてきており、利用者の楽しみに繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に活動できる作業を用意したり、個別に話を聞き、職員が仲立ちする事で関係を調整し、支援している。 その日の心身の状況や気分、感情の変化に注意し、利用者同士の関係が円滑になるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設への住み替えや入院の際には、関係者に本人の状況、情報を細かく伝え、ご家族にも十分な支援をお願いした。 ターミナルケアにて、グループホームで亡くなられた利用者のご家族が、立ち寄って下さる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者に声をかけて希望や思いを聞いたり、家族にも来訪時等に思いを聞いている。 又、ご本人の表情や行動からから、思いを汲み取り把握に努めている。担当スタッフを位置づけ、より深く思いを受けとめれるように努めている。	
			(外部評価) 日々の関わりの中で職員は利用者に声をかけ、思いや意向を把握するように努めている。利用者一人ひとりに合わせた方法で思いを聞くよう職員全員で努めている。また、意向を言い表しにくい利用者には、表情や行動からも思いをくみ取るよう努めている。利用者毎の担当職員を中心に新たに知り得た情報は記録に残し、職員間で共有し、利用者の思いを大切にした介護計画などサービスに反映できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人のお話やご家族のお話から生活歴等の把握に努めている。センター方式への記入をご家族にお願いし、これまでの生活習慣や暮らしについて把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズム、心身の状況を把握し、記録として残し把握に努めている。関わりの中での気づきをスタッフ全員で話し合い、記録に残している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人の思いやご家族からの要望、職員の気付きを検討し、ご本人本位の介護計画が作成できるように努めている。定期的にカンファレンスや評価を行い介護計画の見直しを行っている。又、利用者の状況に変化が見られた場合には、現状に合った介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向や要望を事前に聞き取り、職員全員でカンファレンスを行い、担当職員を中心に利用者本位の介護計画を作成できるよう努めている。前回の外部評価の「期待したい内容」から支援記録の見直しを行い、計画に基づいた経過記録となるよう改善している。定期的にモニタリングを行い、職員全員の意見や気づきを大切にして、介護計画がより良いものになるよう努めている。	前回の外部評価の「期待したい内容」から、次のステップアップに向けて支援記録の見直しをしているが、現段階では職員全員へ周知するまでに至っておらず、継続してより良い経過記録が職員全員で作成されることを期待したい。また、全員で情報を共有することにより職員は達成感を感じ、サービスの向上や意欲に繋がることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りやショートミーティング、カンファレンス、会議等で情報を共有、記録し実践や介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制を生かして、受診や体調管理を行っている。ご本人やご家族の要望等を配慮し、職員、ご家族が馴染みの病院への受診を支援している。 なじみの美容院や理容院へ出掛けたり、ご本人と自宅に立ち寄り、ご家族との外出を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民政委員や地区の方々に運営推進委員になってもらい、行事の際には協力を得ている。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており、様々な指導をしてもらっている。各教育機関との協力や働きかけ、訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を受診、職員が受診の支援を行っている。協力医療機関からの往診が月に2回あり、その都度相談に乗ってもらっている。協力医療機関がかかりつけ医でない利用者も、希望すれば診てもらえる体制がある。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。月2回協力医の往診や急変時の迅速な対応、24時間体制での連携が整っているため、希望して協力医をかかりつけ医に変更する利用者も多い。協力医は電話でも気持ちよい対応をしてくれることから、職員の安心に繋がっている。職員は受診介助をする場合もあるが、家族から同行の希望があれば相互の連絡を取り合うなど、情報を共有し安心して適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 週1回看護師の定期訪問があり、健康相談や医師との連携相談を行っている。利用者に状況の変化がある際には、随時対応できる体制がある。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、ご本人の支援に関する情報をご家族と相談しながら、医療機関に提供している。入院中は、ご家族や病院からの情報提供を受け、ご本人の状況を把握し、随時、カンファレンスを実施、退院後の受け入れがスムーズに行える様に、取り計らった。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りに関する指針を定めており、ご家族の同意を得て、医師及び医療機関と連携し対応している。入所時に、看取りに関する指針を説明し同意を得ている。ご本人の状況に合わせて、ご家族の希望があればグループホームで看取りが出来ることをお話し、ご希望があれば対応している。</p> <p>(外部評価) 「看取りに関する指針」を定め、入居時に対応できる内容などを家族に説明している。管理者交代後に1名の看取りを経験しており、家族が見守る中で穏やかに最期を迎えられたとのことであった。家族から「よくしていただいた」という感謝の言葉が聞かれた。今後は、利用者の重度化を踏まえ、医療との連携や職員のケアのあり方について話し合いを持ちながら、支援に取り組む姿勢である。</p>	<p>「看取りに関する指針」を定めて看取り介護を実施しているが、職員への研修や勉強会の充実が望まれる。看護師を招いて勉強会を実施していることから、時には重度化や終末期をテーマにするなど、職員が少しでも知識が習得できるよう取り組むことを望みたい。また、医療との連携など支援体制についても職員全員で話し合い、職員が不安なく終末期ケアに取り組める体制づくりを期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 玄関先にAEDを設置している。消防署の普通救命講習に職員全員が参加し、AEDの使い方をスタッフが把握している。緊急時対応マニュアルの確認や応急手当の確認を会議等で行っている。 急変時や緊急時に、かかりつけ医の往診対応がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月19日に業所独自で避難訓練を実施している。マニュアルや緊急時連絡網を作成している。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をしてもらっている。避難訓練時に運営推進会議を実施し、地域の方々に協力をお願いした。今後は、施設からの地域貢献についても取り組んでいきたい。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと防災訓練を実施している。毎月19日に自主的に事業所独自で避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めている。車いすを使用している利用者の居室には車いすマークの表示があり、避難した利用者はドアに吊るされているネーム板を床に落とすなど救出者に分かりやすくする工夫を取り決めている。訓練には地域住民の参加がなかなか難しく、今後も継続して参加を呼びかけて行く方針である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 年長者として、誇りを大切に丁寧な言葉かけで対応している。ご家族の了解を得て、その時々状況に合わせて、ご本人の長年慣れ親しんだ呼び名で呼ぶ事により、ご本人の心に寄り添い、信頼関係を築ける様に心がけている。人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして傷つける事が無い様に配慮している。 (外部評価) 職員は命令口調や声のトーン、遠いところからの声かけ、聞き取りやすい話し方などに注意を払い、職員全員で意識して利用者一人ひとりに合わせた声かけを心がけている。入浴時やトイレ介助時など、必ずノックして声かけをするなど、羞恥心に配慮したケアを行っている。家族の了解を得て、リビングの和室を使用している利用者には、必要に応じてつい立を設置するなどプライバシーの配慮は忘れないよう努めている。また、職員は利用者を人生の先輩として敬う姿勢を常に念頭に置いて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でご本人に相談したり、希望を聞いている。意思表示の出来ない方も、表情や反応から思いを汲み取り、対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力を把握し、その日の体調や気分に合わせてながら、その人のペースに合わせた生活を送ってもらっている。其々の得意な分野が生かせるような支援に努めている。利用者からの細かな要求にも、その都度対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に出張美容店の訪問をしてもらっている。希望のある方は毛染めもすることができる。なじみの美容院や理容院への外出を支援している。毎朝、更衣洗面し身だしなみを整える支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、献立を知らせ、ホワイトボードへ記入していただいている。苦手な食材がある方は、代替献立を作っている。出来る人に声掛けし、一緒に料理をしてもらっている。職員も利用者と同じテーブルにつき会話しながら食事をしている。ホームの菜園で採れた野菜やご家族から頂いた野菜を料理に使っている。 季節毎の献立、行事食や誕生日の祝膳を行っている。	
			(外部評価) 施設長が献立を作成し、利用者からリクエストのある場合には臨機応変に対応している。食材は自家菜園で採れた新鮮な野菜が使用されている。行事の特別なメニューを取り入れたり、時折簡単なおにぎりなどを持って出かけ、気分転換を図ることもある。利用者は職員と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をしている。利用者は自ら台所に立ち、米とぎをするなどできることを手伝っている。また、食事前には健口体操や発生練習をし、食事が食べやすくなるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者毎の食事摂取量や水分量を記録している。利用者別食事介助時の留意事項一覧表を作成し、一人ひとりの呑み込みの状態や好み等を職員が把握している。季節毎の献立を保健センター栄養士に、確認してもらいアドバイスしてもらった物を、利用者に合わせて更に改定している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各居室洗面台にて口腔ケアを実施している。その人の状況に合わせた介助や見守りを行っている。夜間帯は義歯を外してもらい、洗浄している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 一人ひとりの習慣や排泄間隔のパターンを把握し、トイレ誘導する事で、トイレにて排泄できるような支援を行っている。日中は布のパンツとパットで過ごされている方もおられる。足台を利用する事で其々に合った便座の高さに調節し、トイレで排泄しやすい姿勢をとって頂く事により、自然排便に繋がるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 日中はできるだけトイレでの排泄支援を行っている。夜間帯や利用者の状態に合わせて、パットや紙パンツ、ポータブルトイレを使用している。排泄チェック表は細かく記録され、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。3か所あるトイレを利用者の状態に合わせて使い分けている。トイレには足台も用意されており、利用者が排泄しやすい姿勢が取れるよう配慮したり、弾力マットを取り付け楽な体制を取りやすくするなど、職員が手作りしてスムーズな排泄ができるよう工夫している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れている。飲水量を記録、生活の中で度々、飲み物を勧めたり、甘味料にオリゴ糖を使用したりしている。腹部マッサージ、便秘解消体操を取り入れている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 毎日入浴出来るように準備し、時間は、基本10:00~16:00ではあるが、利用者の希望する時間に入浴してもらっている。身体状況に合わせて、介助方法や介助人数を変え、安定した入浴ができるようにしている。改善活動として入浴班があり、一人ひとりの入浴マニュアルを作成している。</p> <p>(外部評価) 毎日入浴ができるよう支援している。入浴時間の設定はあるが、夕方など利用者の希望時間があれば出来る限り対応するよう努めている。「心地よい入浴マニュアル」を利用者毎に作成し、気持ちよく入浴してもらおう支援にも努めている。入浴を嫌う利用者には無理強いはいしないよう、声かけやタイミングなどを工夫している。また、利用者の状態に合わせて、2人体制で介助をするなど安心安全に気持ち良く楽しみながら入浴できるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 日中の活動を促し、生活のリズムを整えて頂けるように努めている。眠れない時は、好きな飲み物を勧めたり、スタッフと会話を楽しんだり、できることをお願いしたり、ゆっくりした時間を過ごして頂き、休息出来る様に支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの薬を理解、把握しており、名前、日付け等の区分を1つ1つ記入し、誤薬のないよう服薬介助前に声をだして確認し、利用者に1回分ずつ手渡しし見守りや介助を行っている。受診時には、職員が同行し症状の変化等を詳しく医師に報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や力を生かして、畑での野菜作りや、料理、掃除等の役割を担ってもらい、気分転換や楽しみの支援を行っている。感謝の気持ちを伝える事で、やりがいを感じられている。本人の誕生日当日に誕生日を祝い、季節の行事を各担当者が計画、協力して実施し、入居者全員の交流や楽しみとなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所の公園に散歩に出掛けたり、個別に買い物に出掛けている。ホーム行事で利用者の希望する場所に外出したり、地方祭や盆踊り等、季節毎の地区の行事に地元ボランティアの協力を得て参加している。 身体状況に合わせた、外出支援をおこなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した際には、自分の財布からお金を出す機会を作り支援している。 預かり金については、預かり時に預かり証をご家族にお渡ししている。入出金は、個人別に金銭出納帳を記入し、ご家族に相談、報告しながら使用し、毎月収支報告書と明細を送付している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に電話が出来る声掛けや雰囲気作りの支援をしている。手紙や贈り物を頂いた際には、お礼の電話や手紙を書く援助をしている。 毎年、ご本人の写真入りの年賀状をご家族、知人に送る支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間は全員が囲める食卓やくつろげるソファがあり、畳みのスペースでは横になり休息できるようになっている。利用者はそれぞれが好みの場所で過ごす事ができる。台所からも利用者を見渡す事ができ、料理の音や匂いから家の生活を感じ取って頂いている。食卓には季節に合わせた花を飾ったり、入居者さんと一緒に摘んだ花を飾ったりしている。壁面の飾りも手作りして季節感をだしている。</p> <p>(外部評価) リビングの壁には棚が取り付けられ、訪問調査日には以前入所していた家族から譲り受けたお雛様が飾られており、季節などに応じて飾りつけを変えている。リビングには円を囲むようにテーブルが置かれ、散歩時に摘んだ水仙がビンに飾られ、いい匂いを放っていた。ソファも置かれており、利用者それぞれがちぎり絵の作成をしたり、洗濯物を畳んだりするなど、家庭的な空間の中で過ごされている様子を見ることができた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者同士で、ソファに座りくつろげる工夫をしている。ご本人の居室と居間を自由に行き来できる。共同生活の中でストレスを感じている利用者には、個別に関わり思いを聞いている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者が家庭で使用していた馴染みの家具やテレビを持ち込んでおり、配置や飾り付けもそれぞれが好みの物になっている。ご家族の写真やご本人が大切にされているアルバム類がある。</p> <p>(外部評価) 居室はエアコン、洗面台が備え付けられている。家族との写真と一緒に孫やひ孫の成長が分かるよう飾ったり、位牌を持ち込み毎朝手を合わせる利用者の姿を見ることが出来る。使い慣れたベッドの持ち込みや昔懐かしいタンスやコタツ、いすなどが置かれ、利用者一人ひとり個性あふれる空間づくりがされており、落ち着いて過ごせるよう配慮している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 椅子やテーブルは個人の体格に合わせた高さの物を使用している。浴室やトイレで補助具を使う事で、自分の力を生かせる工夫をしている。居室やトイレ浴室に大きく名札を揚げ、混乱や間違いの無いようにしている。</p>	